

火星急行

旅立ち

ワタシは2003年6月、火星に向けて旅立った。もう15年も前、前回の大接近の時だ。同年12月、火星に到着したワタシは火星をあらゆる方向から眺めた（図1：※図の提供は全て <http://www.esa.int>、©ESA/DLR/FU Berlin）。

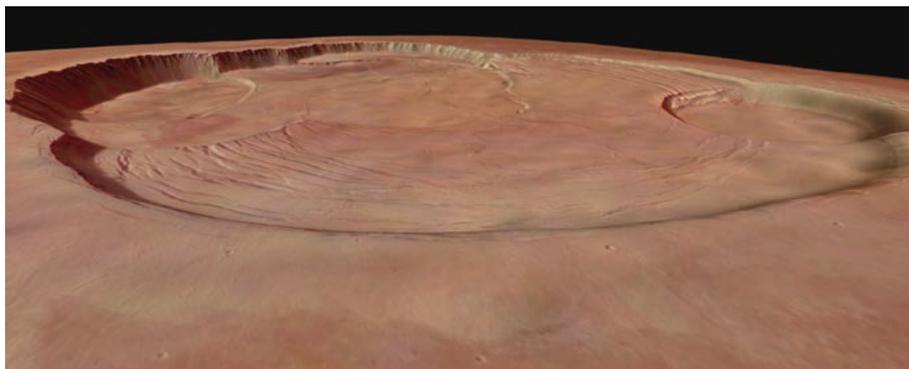


図1. 太陽系最大の火山オリンポス山山頂の複合カルデラ

赤茶けた大地

火星といえば赤茶けた大地だ。青い海も植物の緑もなく、砂漠のような土地が広がる。

しかし見れば、あちらこちらに水が流れたような筋や枯れた川床がある（図2）。

クレーターとの重なり具合から推定すると、38億年ほど前まで、火星にも豊富な水があったよう

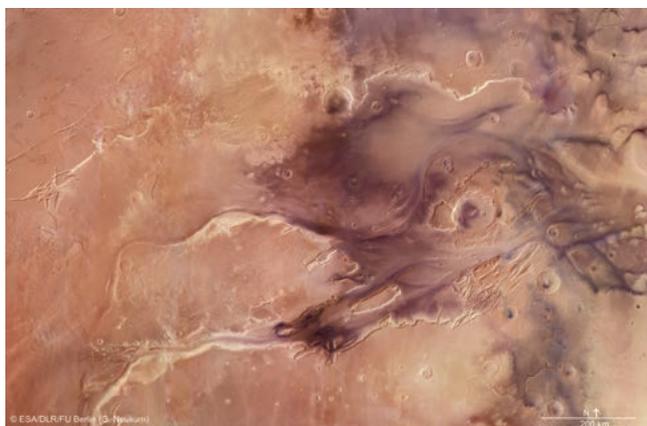


図2. カセイ（火星）谷。水が流れた痕がある。

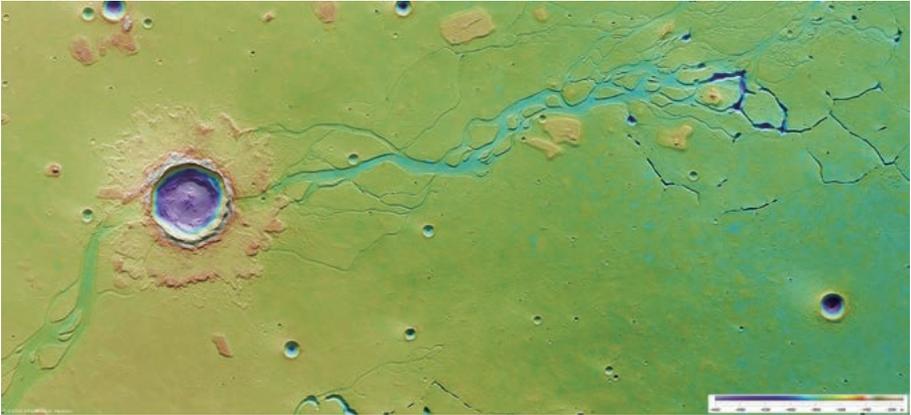


図3. 高さを色で表したヘパイストス地溝帯(青いほど低い)

だ。中には、クレーターができる衝撃で地中の氷が融け、洪水を起こしたように思える痕もある(図3)。

クレーター

クレーターといえば、ワタシの眼を作ってくれたNeukum博士の名前がついたものもある(図4)。

博士のおかげでワタシは今も火星を見続けている(図5)。ワタシはMars Express、今年、“地球大接近”を火星で迎える…

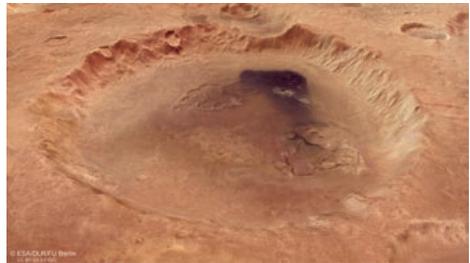


図4. Neukumクレーター

石坂 千春(科学館学芸員)



図5. 赤道方向(左)から北極冠(右)にかけて(撮影2017年6月)